

平成28年度「入院児童生徒等への教育保障体制整備事業」
成果報告書

教育委員会名	青森県教育委員会
事業開始年度	平成28年度

I 概要

1. 事業実施期間

平成28年9月14日～平成29年3月31日

2. 事業実施前の現状と課題

本県の病弱特別支援学校は、県庁所在地である青森市に県立青森若葉養護学校と県立浪岡養護学校の2校あり、いずれも大規模な総合病院の隣接地に設置されている。県立青森若葉養護学校は県立中央病院の隣接地に、県立浪岡養護学校は国立病院機構青森病院の隣接地に設置されており、入院及び通学している児童生徒に対する教育を行っている。なお、小・中学校においては、市町村教育委員会が、大規模な総合病院内に小学校10校、中学校9校の院内学級を設置し、入院児童生徒に対する教育を行っている。

平成25年度「長期入院児童生徒に対する教育支援に関する実態調査」において、本県における入院に伴い転学等をした児童生徒については把握できているものの、転学まで至らないが、教育的支援を必要としている児童生徒の把握と、その具体的対応については、上記の特別支援学校が行っている対応のほかは、十分に把握できていない現状にあった。また、長期に渡る入院中の児童生徒への教育的支援がなされていないケースなど、転学の有無にかかわらず関係機関との連携による教育的支援の方策や、ICTの活用等の効果的な指導・支援の在り方についての検討が求められていた。

そこで、本事業をとおして再度実態調査を実施し、入院児童生徒に対する教育的対応の現状を把握するとともに、入院児童生徒に対する適切な指導・支援を行うために、小・中学校等及び市町村教育委員会等と連携を図るとともに、ICTの活用等による効果的な指導・支援について実践研究をとおして検討を重ね、県内全域における入院児童生徒に対する教育の体制整備及び教育的支援の充実を図ることとした。

3. 事業の概要

【推進地域の概要】

推進地域	本事業の中心的役割を担う特別支援学校	
青森市を中心とした県内全域	県立青森若葉養護学校（病弱）／県立浪岡養護学校（病弱）	
本事業で連携した病院	本事業で連携した福祉等関係機関	
青森県立中央病院／独立行政法人国立病院機構 青森病院	青森県健康福祉部／青森市健康福祉部	

【事業の内容】

本県では、本事業をとおして以下の5点の事業内容について取り組んだ。

①調査研究

市町村教育委員会等を対象とした「実態調査」、10市教育委員会を対象とした「聞き取り調査」、院内学級担当者を対象とした「アンケート調査」を行い、入院児童生徒及び教育支援の現状について把握した。

②指定校における実践研究

- ア 県立青森若葉養護学校、県立浪岡養護学校を指定校とした。
- イ 指定校に隣接する県立中央病院及び独立行政法人国立病院機構青森病院等に入院する児童生徒に対するICTを活用した教育支援を試行した。
- ウ 教育保障体制整備連絡会議を開催し、関係機関との連携体制の構築に努めた。
- エ 入院児童生徒への教育支援の取組をまとめ、院内学級ネットワークや地区特別支援連携協議会に情報提供した。

③学校・病院等連携支援員の配置

- ア 病弱教育に専門性を有する識者を学校・病院等連携支援員として配置した。
- イ 学校・病院等連携支援員は、入院児童生徒の前籍校及び市町村教育委員会、病院を巡回し、情報共有に努めるなど、関係機関との連携強化に努めた。

④教育保障体制整備運営協議会の開催

- ア 本県における入院児童生徒への支援体制の在り方について検討した。
- イ 病弱教育、ICT、医療等の有識者、指定校、市町村教育委員会等の職員で組織した。

⑤入院児童生徒への教育支援に関するリーフレットの作成及び配布

- ア リーフレットを作成し、市町村教育委員会及び小・中学校等に配布するなど、入院児童生徒への教育支援に関する理解啓発に努めた。

4. 事業を通じて得られた成果

①については、「実態調査」では、県内児童生徒が2年間で約8,000名減少している一方で、30日以上入院児童生徒数は3名増加の82名となり、そのうち教育支援を受けていない児童生徒は42名と8名減少した。学習指導の形態を見ると、小・中学校等において学級担任や他校の教員が病院を訪問し指導を行うケースや院内学級で指導を行うケースなど「何らかの対応をしている」という回答が増加した。特に中・高等学校において増加しており、入試等を視野に入れた対応等が推察された。

「聞き取り調査」では、県内外の入転院を繰り返すケースや難病ケースへの対応など、長期又は継続的に入院している児童生徒への教育支援における具体的な課題の一部や、ICT活用等の学習支援の具体事例を把握することができた。

②については、計9回実施し、転学を伴うケース及び転学を伴わないケースそれぞれに具体的な指導・支援に係る関係機関との情報共有や、退院後の支援や連携の在り方について意見交換することができた。迅速かつ丁寧なケース会議を行うことによって、学習支援のみならず、医療面及び生活面への支援、保護者や家庭に対しての支援が必要とされるケースについて、必要な外部関係機関との連携を強化する契機となった。

③については、隣接病院との円滑な連絡調整のほか、保護者の相談対応、学籍のある小・中学校等及び市町村教育委員会との連絡調整など、迅速かつ丁寧に対応することができた。

また、聞き取り調査をとおして具体的な課題等の情報を得るとともに、成果の情報発信をとおして院内学級ネットワーク等との連携強化が図られた。

④については、他分野の関係機関が一堂に会することによって、課題の共有を図るとともに各立場から今後の体制整備を進める上で参考となる指導・助言を得ることができた。

⑤については、他自治体の取組を参考に、有識者からの指導・助言を受け、学習支援事例を盛り込んだリーフレットを作成し、県内全小・中学校等、市町村教育委員会等に送付した。

5. 課題と今後の方策（次年度の重点的取組等）

本事業を通じて捉えた課題及び今後の対応方策は以下のとおりである。

①入院児童生徒への教育的対応を進めるための柔軟な仕組み

「実態調査」「聞き取り調査」「アンケート調査」の結果から、短期間入院等の転学をしない場合の児童生徒への対応や、転学手続きを必要とする入院期間等の自治体による違いが明らかとなり、保護者にとっては転学手続きがハードルとなっていることが推察された。これらの結果等について、教育保障体制整備運営協議会において手続きの簡略化や共通化について検討が必要であるという意見が挙げられた。

次年度は焦点化するモデル地区を3地区に拡大することから、自治体を越えて踏み込んだ議論を進めるとともに、就学事務研究協議会や義務教育担当指導主事会議等においても話題として取り上げるなど、入院児童生徒への教育的対応に関する理解促進を図り、手続きの共通化等に必要な事項について整理していくことが考えられた。また、学校・病院等連携支援員が地域の院内学級における支援をつなぐほか、院内学級未設置病院等の情報を収集し、指定校が対応するなどの柔軟な仕組み作りを検討し、進めていくことが考えられた。

②ICT活用等による具体的な学習支援の充実

携帯型タブレット端末及びWi-Fiルーターの整備により、ネットワーク環境が整っていない場においてもICTを活用した教育的支援の充実が図られるよう、指定校の在籍児童生徒に対する試行を重ねてきたが、指定校における転学等による支援事例9件の中にはICT活用が求められるケースがないと捉えたため、実証的な取組にまではつながらなかった。しかしながら、地域支援の一環として、高等学校から指定校への相談において、退院後自宅療養中の生徒の教育的保障において活用に関する具体的な検討がなされたほか、指定校におけるケース会議や聞き取り調査、院内学級アンケート等から、ネットワーク環境に接続することだけでなく、入院児童生徒の前籍校との情報共有や学習課題の提供、入院児童生徒にとっての友達や先生とのコミュニケーションを確保する観点から、非ネットワーク下における具体的な活用可能性が示唆された。

次年度については、今年度の試行や検討内容を踏まえ、教育保障を必要とする時期、病気の状況、院内学級等の設置の有無等の状況を考慮するとともに、病院内でのネットワーク環境への接続の可否を踏まえつつ、ネットワーク接続にとらわれない柔軟な対応を検討し、具体事例を蓄積していくことが考えられた。また、遠隔授業等を含む学習保障において指定校が直接指導を行うことだけでなく、環境支援を行っていくという観点から、在籍校による支援も含めた在り方について試行することが考えられた。

③理解啓発及び医療等の関係機関ネットワークの構築

各市町村教育委員会に対しては、実態調査及び聞き取り調査の実施自体が問題提起となったほか、ケース会議等を行うことにより、ある程度理解啓発を図ることができたと考えるが、学校現場においては、まだ十分に入院児童生徒への理解が浸透しているとは言えない状況にある。

今年度は理解啓発リーフレットを作成し、全公立小中学校等の全学級に配付したが、次年度は引き続

きその周知に努めるとともに、各市町村における学校訪問指導等での活用を促したり、県内の院内学級及び地域の学校を訪問し説明したりするなど、周知を図っていくことが考えられた。

また、院内学級未設置病院や小児科以外の診療科の対象として入院している児童生徒等の状況の把握と教育的支援を進めていくことが必要であり、そのために県医師会等の関係機関との連携を図り、病院間のネットワーク構築を進めていくことが考えられた。